

航空・海上での物流を支える商船三井ロジスティクス

商船三井ロジスティクスは航空貨物を中心とした貨物輸送サービスと総合物流サービスを展開しており、台湾でも1991年から現地法人を設置してビジネスを進めてきている。アジアのハブである台湾での航空貨物、海上貨物の輸出入を事業の中心としながら、今後はお客様の在庫を預かる倉庫ビジネスなど新たなチャレンジも進行中である。今回は、商船三井ロジスティクスの台湾での事業内容や今後の展望について古角総経理を訪ねお話を伺った。



商船三井ロジスティクス 古角総経理

台湾での事業内容について

商船三井ロジスティクスは、三井航空サービスが前身となっており、航空貨物を中心とした。現在は、商船三井グループの中核物流会社として航空、海上、陸上の貨物輸送サービスと、これらを組み合わせた総合物流サービスを提供しています。海外ネットワークとしては25ヵ国、97ヵ所の自営拠点をもっており、46ヵ国、176拠点の代理店網を有しています。

台湾では、1991年に現地法人を設立しており、まもなく30年を迎えることとなります。台湾は経済面で日本と深い関わり合いがあることから航空輸送を含む多くの貿易があったことや、中国大陸などの東アジアと南アジア、日本の真ん中に位置することから東アジア・南アジアへ物流網を広げていくために必要不可欠であることなどから現地法人を設立したと聞いています。

台北を本社として台中、高雄にも事務所を構えています。現在の台湾のビジネスは4本柱で進めており、航空輸出が40%、航空輸入が15%、海上輸出が20%、海上輸入が20%といった構成となっています。そのほかにも、台湾国内の倉庫や陸送ビジネスも行っています。主要な輸出入先としては上海や香港が多く、次いで日本で、それら3地点で全体の7割程度を占めます。物流費用の削減という流れがある中で航空輸送の貨物はやや減少傾向にあり、海上輸送へシフトしてきて

いるように感じています。我々も全社的に海上のコンテナ輸送にここ数年は力を入れて取り組んでいます。

台湾市場の特徴について

私自身としては、2017年の7月から台湾に来ています。日本では営業を担当していましたが、台湾でも日系のみならず台湾系企業の訪問もさせていただいています。その中で日本と比較して台湾の方は新規で訪問しても会ってくれ、温かく迎えてくれるという点に驚きました。商談内容については厳しくやり取りする点は日本と同じですが、より良いものがあれば柔軟に検討をしたいという風土が台湾にはあるように感じます。

台湾からの航空貨物の輸出としては付加価値の高いものが多くを占めており、半導体、電子部品、液晶部材関連などが代表的です。ほかにも自動車関係のオートパーツなどを南アジア中心に運ぶことも多いです。航空輸入では、液晶の部材を台湾の工場に輸入して加工し、第三国へ輸出するといった、台湾で付加価値の高い製品を製造する際に活用いただくことが多いです。一方で海上輸送では、大量に送る必要があり、ある程度時間に猶予があるものとして、化粧品や食品、薬品などの一般消費財が多いです。その中で農産品の扱いはこれまで少なかったため、これから力を入れていきたいと考

日本企業から見た台湾

えています。背景として、台湾に食材を持ち込みたいという日本企業が増えているように感じています。台湾には日本の食材に魅力を感じている方が多く、北海道など日本の地方ブランドの認知も高いため、それらブランドを活用した付加価値の高い商品でも台湾で販売機会があるのではないかと感じています。

今後の展望について

弊社は商船三井の看板の下、グローバルに事業展開をしております。アジアのみならず、全世界に多くの拠点を構え、商船三井グループのネットワークを強みとして、ビジネス拡大に努めております。輸出入の発着地両サイドでセールスを行うことにより、輸送量を増やしていけるような活動を進めていきたいと考えております。今後の取り組みとしては、主に以下の3点にフォーカスして拡販に努めて参りたいと考えております。現在、台湾拠点では日系企業のお客様が7割程度を占めておりますが、今後は中華系(非日系アカウント)のお客様の開拓も進めていきたいと考えております。そのために、物流業界での経験を持つ現地スタッフを採用してアカウントセールスを進めているところです。2点目として、倉庫ビジネスの拡大をターゲットとしております。台湾国内で保税倉庫を借り、日本から輸入されてくる部材をそこで在庫し、必要に応じて、お客様へ配送するというビジネスモデルです。日本企業にとっては、非居住者在庫として保税地域に保管することで免税効果が得られるメリットがあると共に、海上輸送で一度に大量に輸送し保管する事で、これまでの航空便による輸送コストの削減にも繋がります。一方、台湾メーカーにとっては、近くに在庫がある事により、欲しい時にリードタイム短く部材を調達できるというメリットがあります。実際に台中エリアで600坪程度の保税倉庫を借りてビジネスを稼働させる計画を進めております。物流のビジネスでは他社とのスイッチングが比較的容易に起こるのですが、倉庫ビジネスは長期ビジネスにつながる可能性があり、安定的なビジネスとなるため力を入れていきたいと考えております。3点目として、日系の貨物代理店との協業によ

り、日台間(特に北海道)の輸送ビジネスの拡販に取り組んで参ります。これまで、弊社として実績の少ない、食品の輸送を中心に、北海道の農産物、生鮮食品の台湾への輸入、台湾の野菜、食品の北海道への輸出をターゲットとして、新たな分野へ挑戦していきたいと考えております。

ありがとうございました

商船三井ロジスティクスの基本データ

会社名	商船三井物流
代表 総経理	古角大樹
設立	1991年
資本金	750万円
事業内容	物流業、倉庫業

注)2019年4月の情報による
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理